



令和4年6月27日
海上保安庁

SAPPHIRE22

フィリピン沿岸警備隊に対する日米連携による能力向上支援 (結果概要)

～FOIP 実現に向けた日米共同取組「SAPPHIRE(サファイア)」の推進～

海上保安庁は、6月12日(日)から25日(土)までの間、外国海上保安機関に対する海上保安能力向上支援の専従部門「海上保安庁モバイルコーポレーションチーム(MCT)」4名をJICAの枠組みでフィリピンに派遣し、米国沿岸警備隊(USCG)と連携してフィリピン沿岸警備隊(PCG)職員に対する能力向上支援を実施しました。

今回は、5月18日に実施された、USCGとの協力覚書付属文書への署名後、初めての日米連携(SAPPHIRE)※による外国海上保安機関に対する能力向上支援となりました。

- 1 今回の派遣において、海上保安庁MCTは、日本が供与した2隻の97m型巡視船を用いた「えい航訓練」等において技術的な指導を行い、フィリピン沿岸警備隊の救難能力を高めることができました。
- 2 また、USCGがフィリピン沿岸警備隊に対して行った「防火・防水部署訓練」「小型船運航教官育成研修」等にMCT職員も参加し、助言を行うなど、日米が相互に連携してフィリピン沿岸警備隊に対する能力向上支援を行いました。
今回の支援は、本年5月18日に海上保安庁とUSCGとの間で署名した2010年の協力覚書の付属文書に基づく日米共同取組「SAPPHIRE(サファイア)」の一つとして、日米が連携して実施したものです。
- 3 海上保安庁では、今後とも、法の支配に基づく「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の実現に向けて、各国の海上保安機関との連携・協力を強化していくとともに、インド太平洋地域の海上保安機関の能力向上支援に積極的に取り組んでまいります。

※【参考】

SAPPHIRE(サファイア)とは、USCGとの協力覚書付属文書において、日米両海上保安機関による共同オペレーション、合同訓練、能力向上支援などの共同取組の呼称とされ、Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and Integrity on the Rule of law based Engagementの略称です。

「Solid Alliance for Peace and Prosperity with Humanity and Integrity on the Rule of law based Engagement」

- ・日本語訳：法の支配の取組における誠実と仁愛に基づいた平和と繁栄のための強固な連携

【その他】

新型コロナウイルス感染症対策

現下の新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ、派遣に際しては、PCR 検査の受検を始めとした新型コロナウイルス感染症対策を徹底しています。また、派遣者は、帰国後、政府の水際対策措置を遵守いたします。



巡視船を用いた「えい航訓練」



巡視船を用いた「えい航訓練」



米国沿岸警備隊による「安全運航等に関する研修」



米国沿岸警備隊による「防火部署訓練」